



Global Network
on Extremism & Technology

「フォギング」と「フラッディング」 テロ事件発生後の過激派による 誤情報／偽情報への対抗措置

マーティン・イネス

エグゼクティブサマリー

GNETはロンドン大学キングスカレッジのInternational Centre for the Study of Radicalisation (ICSR：過激化研究国際センター) が取り組む特別プロジェクトです。

本レポートの著者は *Crime and Security Research Institute* (犯罪・セキュリティ研究所) およびカーディ大学の *Police Science Institute* (警察科学研究所) の理事を務めるマーティン・イネスです。

Global Network on Extremism and Technology (GNET : 過激主義とテクノロジーに関するグローバルネットワーク) はテロリストのテクノロジー利用の理解と対抗措置のために業界が資金提供する独立したイニシアティブ、Global Internet Forum to Counter Terrorism (GIFCT : テロリズムに対抗するためのグローバルインターネットフォーラム) の支援を受けた学術研究のイニシアティブです。GNET はロンドン大学キングスカレッジの戦争研究学部の学術研究センター、International Centre for the Study of Radicalisation (ICSR) により召集され、統制されます。本文書に含まれる見解と結論は著者の見解と結論であり、明示、暗示を問わず、GIFCT、GNET または ICSR の見解と結論を代表するものではありません。

お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **@GNET_research**

本エグゼクティブサマリーは複数の言語(アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語および日本語) で提供されています。GNET のその他の出版物同様に、これらおよびレポート全文(英語のみ) は GNET のウェブサイト www.gnet-research.org から無料でダウンロードできます。

エグゼクティブサマリー

ソーシャルメディアおよびそれに関連したメディアエコシステムの変化はテロ事件発生後の国民のセンスメイキングと理解のダイナミクスに大きな影響を与えた。本レポートでは、かかる状況の下で誤情報や偽情報が何故、どのように発生するのか、どのような影響があるか、その影響を管理し、軽減するためには何ができるのかについて考察する。

本レポートではこれらの社会的反応プロセスを解釈・理解するための3つの革新的な概念を紹介することに焦点を定めた。

- 「フォギング」とは問題の事件に関する複数の説明と解釈を構成し、伝えることから発生する効果のことである。これらの説明は大体においてもっともらしく思える。代替的事実（別の角度から見た事実）を伝達する目的は多くの人々にそれらを信じてもらうためとは限らない。根本的原因への疑惑感と複雑な感覚を引き起こすだけで十分である。その結果、矛盾する対照的な報告と説明のミスマッチが情報空間に作り出され、情報の受け手は何が何故起こったのか、どの情報源を信じてよいのかさっぱり分からなくなる。
- 「フラッディング」は関連性があるが、情報空間を特定の誤情報や偽情報で蔓延させることを伴う独特の情報の効果のことである。これは事件や懸念事項に興味を持つ情報の受け手が繰り返し遭遇するように情報を大量かつ頻繁にプラットフォーム全域で再投稿することである。その結果、フォギングの一般的状況の下で、特定の歪んだ、または欺瞞的な情報で「ゾーンを氾濫させる」ことはより広範な状況を強化し、再生する効果をもたらす。
- 「サーフェッシング」とは代替的事実にもっともらしさを与えるために使われる説得のテクニックのことで、影響ゾーンを混乱させ、氾濫するのに使われる。誤情報／偽情報の「サーフェッシング」の主な例には、目撃者の振りをする、事件の現場に偽りの画像を使うこと、代替的説明を提供する他のウェブサイトに注意を引いたりすることが含まれる。

これらの概念とその適用を定式化することは、学術文献では誤情報と偽情報が日常的に明確に区別されているが、実際の経験ではより複雑かつ偶発的に発現しがちなことの認識である。誤情報は通常、誤解を招きかねない情報をうっかり伝達することと定義づけられている。それと対照的に、偽情報は真実を歪めたり、欺くために意図的に行われるものと考えられている。しかし、急速に進展し、非常に不確かで不完全な情報が行き交うテロ事件などの場合には、特定の情報やコミュニケーションの背後にある意図を見抜くのはしばしば困難である。その上、意図的に誤解を招く情報が正確だと信じる当事者がそれを無意識に拡大し、再配信するのはよくあることで、その逆も成立する。その結果、そのような出来事を誤情報または偽情報として定義づけるべきかについて困難な問題が発生する。

そのような不確実性と両義性について熟考する際、ここでは「誤情報／偽情報」の概念を使って主要な分析の焦点を偽りのメッセージの組み合わせから頻繁に発生し、故意に操作的または害のない情報の総合的效果を引き出す方法を明瞭にすることに定める。3つの主な概念が生まれた過程は、個々の情報に誘発された特定の効果ではなく集合のメソレベルの結果に関係しているため、これは合理的なことである。

これらの概念を発展させ、テロ事件への国民の反応のダイナミクスをそれらがどのように解明するかを示すために経験的データを利用した。経験的データは有名なテロ事件の影響を集中的に調べることを目的にソーシャルメディアを利用した広範囲の研究プログラムから引き出された。報告された主な出来事には以下が含まれる。

- マンチェスター・アリーナの爆発物事件発生後、アリーナ内からTwitterに投稿された画像は「偽りの付箋の心理作戦」の一部だという主張で異議が唱えられた。今度はこれらの説明はオールダム病院に別のテロリストが侵入しているなど、深刻な結果をもたらした誤情報／偽情報を促進する環境を作り出した。
- 2017年のウエストミンスターブリッジ事件の犯人としてアブ・イザディーンが誤同定されたことは独自のイデオロギーを推進するために極右グループによって誇張された。極右グループは誤同定が明らかになった後もそれを利用し続けた。

分析により特定できた一つの影響ベクトルは、ジャーナリストとしての資格とソーシャルメディア上の影響力を主張する二次的ウェブサイト上で作成され、伝達された誤情報／偽情報が多くの資料が完全ではないことを知りながらも事件のニュースを独占的にいち早く報道しようとする主流メディアの行動にいかに関与するかに関するものである。

より大まかに言えば、本レポートは異なるタイプのネットの危害を研究している人々が「より豊かな状況」を構築し、新しいテクノロジーと社会的危害間の交点と相互作用を細かく理解できるようにアイディアを交換することの重要性を論証するものである。



お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **[@GNET_research](https://twitter.com/GNET_research)**

GNET のその他の出版物同様に、本レポートは GNET のウェブサイト www.gnet-research.org から無料でダウンロードできます。

© GNET